

2025年度 事業報告

●はじめに

2025年度は大阪で二度目となる万博が開催され、社会的にも大きな注目を集めた一年でした。コーダイも諸団体の皆さまとともに万博会場でのイベントに参加し、微力ながら万博の盛り上がりには寄与するとともに、参加者の皆さまと楽しい時間を共有することができました。

一方、国内に目を向けますと相次ぐ火災や地震、米問題や熊騒動など、心を痛める出来事が相次ぎ、今なお対応が続いています。こうした不安定な社会情勢の中にあっても、人と人とのつながりや学びの場の持つ価値が、あらためて強く意識された一年であったように感じます。明るい話題としては、女性初の総理大臣の誕生が挙げられます。女性の先駆者として新たな道を切り開くためには、並々ならぬ努力と成果、そして、相応の覚悟が求められます。この出来事は、社会の在り方や価値観が大きな転換期を迎えていることを象徴するものであったと思います。ひるがえって、世界に目を向けても従来の常識が通用しない変化と激動の年であり、先行きへの不透明感は拭えない状況が続いています。

さて、コーダイは次年度、創立18年目を迎えます。ここ数年、改革活動に継続して取り組んできましたが、当初思い描いていた成果をすべて実現できていたわけではありません。しかし、その過程で明らかになった課題に正面から向き合い、現場の声も取り入れながら改善を積み重ねてきたことで、受講生にとって「心地よい居場所」であり、「誇りを持てるコーダイ」へと、着実に歩みを進めているという手応えを感じる1年でもありました。

これからも、生涯学習の原点である「受講生が楽しく学べる学習環境創り」を主軸とし、運営を担う責任と自覚を胸に、皆さまとともにコーダイの未来を形づくっていきたいと考えています。

●事業報告

1. 受講生の満足度向上と心地よい居場所創造

「新学習システム構築委員会」によるコーダイの課題対応や先を見据えた方針・考え方の検証、「理事長と語ろう」による受講生との意見交換などを通じての課題対応や現場の把握、「3大イベントの開催主旨」「コーダイの歴史を知ろう」の動画配信、「快適な学習の場の提供」などでコーダイの考え方・方針・歴史などを伝え、また、「多彩で豊富な講座の提供」などにより受講生の満足度を高める施策を実施しました。これらは一気に達成することはできませんが、根気よく活動を続けることで、効果が生まれると確信しています。

2. 新学習システムの構築と快適な学習環境の提供

副理事長を中心としたメンバーで「新学習システム構築委員会」を立上げ、受講生の満足度を高め、ワクワクする学びの場の提供を目指して審議を重ねてきました。その結果として、次のことを次年度から実施することになりました。

- * 次年度から授業日数を1日増やし26回から27回にしました。
- * ハード面での快適な学習環境の提供活動として、次年度は教育会館東館の定員を2名～4名減にし、スペースに少し余裕を持たせるようにしました。そして、社会福祉会館の使用を止め、新たに長堀橋教室を開設し、今後もこの活動は継続していきます。また、一部の教室に高輝度プロジェクターを導入し、今後必要と思われる教室には順次導入する予定です。
- * コーダイで楽しく学ぶためには、受講生にコーダイの方針や歴史を知って頂く必要があります。残念ながらコロナ以降、この点が少し疎かになっていました。それを補うために今年度は「3大イベントの開催主旨(約15分)」及び「コーダイの歴史(約35分)」についての動画を配信し、自主活動の時間帯に視聴してもらい、理解を深められるようにいたしました。
- * ソフト面での快適な学習環境の提供活動として、受講生の興味を引き立て、楽しく学べるように、提案制度から生まれた新規科目3科目を含め、興味を掻き立てる通年講座を61科目、興味を広げ、深める短期講座を7講座、幅広い分野から学べる公開講座を6回開講しました。今後もコーダイだからできる、また、コーダイだからやらねばならない独自性を活かした講座の開発・開講を念頭に置いて活動いたします。
- * 社会への参加活動を検証し、活動の第一歩として2025年度から新たに参加し易いテーマを提案し、フォローしました。次年度以降も社会への参加活動の検証を継続し、この活動に対して受講生の理解を得ながら活動を活性化させていきます。
- * 3大イベントの見直しは昨年度から継続して活動しており、特に入学式については「入学式実行委員会」を発足させて見直しを継続中です。受講生が楽しく参加できるイベントを目指して、次年度以降も継続して活動をする予定です。

3. 社会への参加活動の新たな施策策定

現状ではコーダイの活動の一つの核である社会への参加活動は、残念ながら十分上手く行っているとは言い難い状況です。この状況を打破するために、現状の活動状況を再検証しながら、活動内容について審議・検討を進めてきました。本年度は科にふさわしい活動をしている事例の紹介、コーダイから参加し易い活動テーマの提案やフォローも行いながら、意識改革や啓蒙を図り始めました。次年度以降は今までの活動方針にとらわれず、受講生が活動し易い新たな方針を打ち出し、受講生の理解を得ながらこの活動を活性化させる予定です。

また、コーダイの理念の一つである環境問題の取り組みとして、不用品の有効活用を目指した「譲りたい人」と「受け取りたい人」を繋ぐ無料の譲り合いを目的とした「コーダイゆずりば」サイトを開設しました。さらに古着の回収は継続中であり、

引き続きSDGsにも取り組んでいきます。

4. 人材発掘と人材育成の強化

コーダイの核であるCDの人材発掘システム構築に着手し始めました。しかし、まだ一歩前に進んだ初期段階であり、このシステムの完成までには、まだまだ時間を要します。今後は検証を重ねながら、CDの皆さんの協力も得ながら実効性の高い人材発掘システムの定着と運用の確立を目指した活動を継続させていきます。

同時に、人材発掘だけでなく人材を真の「人財」へと育成するため、現在実施しているPCの通年研修を含め、研修制度の見直しや人材育成活動の充実にも引き続き注力し、豊富な人材確保に努めます。また、スタッフに対しては、運営上必要なコーダイの規則等について、過去の規則や経緯をも含めた研修を行い、全体像を理解し、スムーズな運営の一助となるように努めました。

5. 収益事業や寄附金収集施策の構築

収益事業構築の実現を目指して、検証を行いました。まだ課題を抱えた状況から抜け出すことはできず、次年度への継続課題となりました。

また、寄附金を活用した活動内容の公表は、一部スタートをさせましたが、まだまだ充分とは言えず、次年度は他グループと連携して取り組み、寄附金を頂く側の責務をしっかりと果していきます。

6. 情報管理とセキュリティの強化

コーダイ関係者の情報管理やネットワークセキュリティの強化は日々留意しながら対応していますが、昨今の状況を考えるとさらなる強化が必要であり、今後も継続して取り組んでいきます。

応募者動向の分析システム構築については継続テーマとし、募集活動に活かせるように努めます。

7. 広報活動の充実

コーダイの保有する広報ツールを駆使した広報活動という観点からは、十分効果を出せたかという点必ずしもそう言い切れない部分があります。これら広報ツールを駆使して、広報グループを中心に、他グループ、CD、受講生などコーダイ関係者も含めた広報活動のあり方を検証し、多くの方にコーダイの活動を知って頂くために「知らせたい情報」「知りたい情報」「知らせる必要のある情報」などの豊富な情報を迅速に伝え、コーダイの活動に共感し、協力して頂く方を増やせるよう次年度も継続して検討を行います。

8. 総務と財務の強化

対外折衝の窓口活動としては順調に進んでいると思っています。コーダイ全般の各種規定の統括・文書管理について、規定の整理はできましたが、文書管理までは完了していません。次年度の継続テーマとして取り組みます。

業務の効率化という視点では、デジタル推進プロジェクトの支援の下、スタッフの交通費の電子申請を導入できました。また、予算と実績の差異検証については、次年度からもう少し深掘りできるよう検討いたします。

9. 募集活動の検証と拡充

通年講座は募集定員 2,524 名に対して 2,862 名の応募があり、短期講座は 315 名の募集に対して 274 名の応募がありました。多くの選外者が出たことは誠に残念です。一方では、キャンセル者が 180 名近くもあり、今後の募集の在り方として応募者の皆さんも含めた課題が発生しています。今後、この課題対応に取り組んでいきます。

同時に、今年度の募集活動のあり方を総括し、全員がベクトルを合わせ、より効果が出るような新たな施策を検討いたします。

10. デジタル化推進活動の加速

デジタル化による効率化、利便性向上、ペーパーレス化などを目指して活動をしてきました。チケットレスの導入を目指した電子決済システムを構築し、既に一部イベントなどで実施済みです。また、スタッフの交通費申請を電子申請に置き換え、業務の効率化を図りました。今後CDの交通費の電子申請や講座実施報告書の電子化なども含めて展開するようにいたします。

●学習グループ

1. 2025 年度は、“快適な学習環境の提供と心地良い居場所づくり”をモットーに教室の設備等ハード面の環境改善と機器トラブルへの迅速な対応に努めるとともに、学習グループメンバーの若返りと育成及び各チーム課題の改善に時間を掛けて取り組んできました。

2. 2025 年度目標：改革・改善の優先と成果の創出

- ① 学習グループ組織強化
- ② 人材の発掘と育成
- ③ 社会への参加活動の新たな施策策定と実行
- ④ コーダイ 3 大行事（入学式・健康まつり・コーダイフェスタ）の改革、改善

3. 自組織の強化

<曜日担当チーム>：曜日担当の若返りと早期育成

- ・新任曜日担当へのサポート体制（1 学期中）→ベテランと新任担当の協働
- ・毎月曜日の「曜日担当連絡会」の実施 →都度の課題の共有と解決策の提供
- ・各教室担当の配置 →機器トラブル及び教室問題への迅速な対応
- ・新任曜日担当の育成にサポート体制を敷き、毎月曜日に振り返り連絡会を開催したことで情報共有化と迅速な課題解決をすることでができ、経験を豊富に積み 1 学期でサポート体制を解消

<学習事業チーム>：3 大行事の改善（参加者数 UP）

- ・コーダイ 3 大行事の開催主旨 →動画説明（1 学期）
- ・入学式：入学式実行委員会を中心に、2026 年度新たな取り組みを構築中
- ・健康まつり & フェスタ →4 月から実行委員会発足し準備

健康まつりの参加者：1,541人(65%)体育館開催で参加率 UP
フェスタの参加者：2,042人(75%)前年を上回る参加率
上記行事は従来の反省や提言を踏まえ改善し受講生満足度 UP

・入学式もより充実した内容へと改革中

<社会参加活動支援チーム>：新たな施策策定と実行

- ・出来る範囲で少しでも人のお役に立つ活動を推進
- ・従来の活動提示型から具体的事例案内と募集、取り纏めを社会参加活動支援チームが行い体験型の社会参加活動へ誘導
- ・現在進行形であり2月末に振り返りを行い2026年度に活かす

<教務事務チーム>

- ・講師承諾書管理やCD関連費用管理を経理チームと連携し共有
- ・データ化が進み一元管理が可能

●教科研究グループ

本年度も継続して「魅力のある科目」作りとコーダイの認知度向上に努めました。その結果2026年度の募集活動では2年連続で前年より100名以上多い応募を頂きました。特に2026年の募集活動では継続受講者の増加がほとんどで、受講頂き高評価を得た上でコーダイを選択されたありがたさと、より一層「魅力のある科目」を作らなければという思いが強くなりました。

1. 2025年度、2026年度と7か所での分散授業が続きましたが、2年連続で前年を100名以上超える応募を頂き、分散教室の授業にご理解頂けたと安堵いたしました。
2. 2026年度の募集活動では継続受講の方が100名以上増加、「おすすめの講座アラカルト」によるより詳しい科目紹介が高評価を得たと考えます。
3. 2025年度の応募状況は前年に比べて150人以上を不合格として、受講頂けない応募者が出たため、応募人数を100名程度増加させると共に、短期講座の講座数を増やし受講の機会を拡大しました。応募者はさらに増加しましたが定員数上では応募数をカバーできました。
4. 既存講座の課題検討
クラスアンケート
課題科目(一次受付時定員未達)「科目の課題を教えてください」で検討
5. 2026年度の短期講座は7科目開講します。
従来の通年講座への候補講座としての位置づけに加え、講師探し、社会貢献講座、スキル系科目の入り口講座としても開講します。
6. 公開講座
コーダイ受講生の受講講座以外の学習機会、コーダイのPR(約110箇所)
市民公開講座7回実施(ほぼ定員以上の参加)
阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット主催公開講座1回

7. 教養講座

コーダイ受講生の受講講座以外の学習機会

夏期講座 4 講座

秋講座 1 講座（今回初実施）

春期講座 2 講座（今回初実施）

8. 他の高齢者向け学習機関との交流

大阪シニア大学交流会、山東老人大学校

●事業グループ

事業推進、子ども事業、ファンド、校友会の統合から3年目を迎えましたが、相互連携の効果はまだ不十分であり今後の課題となります。

<事業推進チーム>

昨年に引き続き千里フィルハーモニアによるニューイヤーコンサートを開催しましたが、今年も大好評でした。大阪再発見の名で実施している農産物収穫体験も昨年棚田契約を締結した農園の協力の下、これまでと違ったツアーになりました。

大阪府警による高齢者詐欺対策講習会及び消防局の救命講習は、各クラス単位の依頼も含め多くの実施がありました。

大阪伝統文化支援として2025年度は若手浪曲師の公演会を行いました。

恒例の社会支援である新米寄付は、今年度も多くの感謝の声が寄せられています。

<子ども事業チーム>

子ども科学フェスティバル等の開催に対する、子供、保護者の期待の大きさは、例年と変わらない参加者数が表しています。

ただ、一部の自治体等において、内容に数年変化がないとの理由で補助金停止の通知がありました。補助金再開に向けてスタッフ全員で対策を検討していきます。

<ファンドチーム>

寄附を頂いた方々に対し、今のコーダイが実行している事、あるいはこれから目指している事など、コーダイの動きを知って頂くために、季刊誌などを定期的に発送します。

<校友会>

高大同窓生である校友会とコーダイの連携は進展しました。

コーダイ行事への校友会参加は広がっており、共同歩調に関しての具体策も話し合われています。

●情報管理グループ

<情報管理チーム>

1. 募集データの集計システムを通して新受講生へ合格通知の発送、入金管理にて受講

決定後、入学案内など発送し、受講生名簿、名札など入学準備の体制づくりを行いました。

- 2.受講生、講師、スタッフのデータをベース化して個人情報の管理運営に努めました。
- 3.ホームページでは募集要項、応募状況をリアルタイムに掲載発信した結果、申込フォームから 2,000 件の申込がありました。
- 4.受講生台帳の集計管理と出席簿の学期単位のデータベース化、並びに修了証書、感謝状の発行を行いました。
- 5.事務所内ネットワークシステムとパソコンなどの機器の保守管理を行いました。
- 6.パソコン、スマホのスキルアップ講座、CD 向けパソコン講座を実施しました。

●広報グループ

広報グループはコーダイの情報ツールであるホームページ、LINE カフェを有効活用し、コーダイの認知度を高め、愛称コーダイを浸透させるための施策を遂行しました。

<HP・SNS 活用>

1. HP を活用し、コーダイの活動状況、募集案内、セミナー、公開講座の開催報告等をリアルタイムで頻りにアップしました。また、受講生サイトでは、健康まつり、フェスタ、クラブ活動、入学式アンケート等々、受講生への情報提供と情報共有を行い、受講生との繋がりを強くしました。
2. SNS に関しては、コーダイの公式 LINE (ラインカフェ) がコーダイからのイベント情報、募集案内、新着情報などをいち早く伝えるツールとして浸透し、コーダイ生にとっては必須のツールとなりつつあります。
3. Facebook の登録者数を増やすための研修を 2 回実施しましたが、まだまだ関心が薄く、参加者は 18 名、フォロー数の増加は 12 名で X、Instagram とともに、この分野での登録者数の増加はかなり難しい状況です。

<広報ツール>

1. 広報誌「れいんぼー」は担当者交代に伴い、紙面の構成、レイアウトを大幅に変更し、「募集案内」「公開講座のチラシ」等、紙媒体に関しては読者が必要としている情報が見やすくわかりやすく提供出来るようにしました。
2. プロモーションビデオは入学式、市民公開講座、講座説明会、フェスタ等々で活用していますが、もっと多くの方にコーダイの実情を知ってもらいファンを増やすために、さらに活用できる場を広げていく必要があると感じています。
3. 広告掲載企業、団体を増やすために営業活動を行い、新たに生協から広告を頂きました。

<パブリシティ>

1. 募集時期に合わせて読売ファミリーに広告を出し、QR コードから訪問者数を検証出来るようにしました。その結果、新人獲得に効果がみられましたが、費用対効果を考えると、まだまだ検討の余地があるように思います。
また、マスコミ対象のメルマガを定期的に配信していますが、反応は鈍いので、さ

らなる活用方法を考えます。

<SDGsの推進>

- 1.環境問題の取り組みの一環として印刷物、コピーの削減に取り組み、印刷部数削減の意識を高めるよう努めました。
- 2.「譲りたい人」と「受け取りたい人」をつなぐ無料の譲り合いサイトを開設。まだ使えるモノを処分せず、必要とする人に届けることでSDGs目標「つくる責任、つかう責任」に貢献しています。

●総務グループ

新事務所への移転に伴う事務所機能や執務環境の向上に併せて什器・備品の現況調査を実施し、保管文書を文書管理規程に基づき保管と廃棄の徹底を実施しました。正確で迅速な経理処理の一環としてデジタル推進チームと協業し、第一段階としてスタッフの交通費支払いシステムを電子化しました。しかしながら、予算と実績の差異検証、適切な予算管理は十分とは言えず、次年度へ継続課題として取り組む必要があります。

<経理チーム>

- 1.入出金伝票を整備して支出ルールを明確にし、周知徹底したことで支払い業務の精度向上と効率化が図れました。
- 2.電子帳票保存法に合致したシステムを構築し実践しました。
また、グループ長を中心に、講師、CDとの源泉徴収に関する認識のずれを防ぐためレクチャーを行いました。
- 3.文書管理規程に整合した経理関連文書の保管、廃棄を実施しました。

<事務局チーム>

1.事務所業務の効率化

新事務所移転を機に什器・備品の現況調査を実施し、適切な備品配置、間仕切りの設置、遮光・遮熱フィルム工事施工等により適切な執務環境の整備と事務所機能の充実を図り、業務の効率化に貢献しました。

2.教室の確保

2026年度以降の教室として受講生にとって利便性が高く、室内環境の良い長堀橋教室3室を確保することができました。(延べ14講座)

3.諸規程の整備、作成と運用

文書管理規程の保存年限に基づき適正な保管、廃棄を実施し、備品についても全数調査を実施し管理精度の向上を図りました。

また、個人情報保護規程等に基づきスタッフ、CDの誓約書及び緊急時連絡先届の再整備を実施し、情報やノウハウの漏洩防止意識の徹底を図りました。

4.災害対応

新事務所及びサテライト教室の管理者実施の避難訓練等の指示、依頼に基づく対

応を行うとともに、各教室に「AED 設置場所並びに避難場所」の掲示を行いました。

●デジタル推進プロジェクト

業務の効率化、利便性の向上およびペーパーレス化を推進し、デジタル化による定型業務の改善を目的として、以下の活動を行いました。

1.現状の分析

各グループの業務内容を精査し、課題の洗い出しとデジタル化による改善点の抽出を行いました。その結果、52件の課題を抽出し、その内23件については、すでにソリューションを提供し、運用を開始しています。また、残りの課題の内2件は開発中、2件は検討中となっています。

2.実施したソリューションの一例

講師謝礼、CD交通費、スタッフ交通費について、入力処理から経理処理までをペーパーレスで一元管理できるシステムを構築しました。作業の自動化により、処理時間の短縮および入力ミスの解消が実現し、業務効率が大幅に向上しました。

3.今後の課題

デジタルツールは、提供するだけでなく、現場で十分に活用されてこそ意味を持ちます。ツールの利用には一定のPCスキルが求められるため、わかりやすいマニュアルの作成や講習会の実施など、運用面でのサポートが不可欠です。あわせて、運用主体との密な連携もソリューションの一部として捉える必要があります。

●募集委員会

2025年度の受講生募集は、応募状況からの判断で1科目開講中止とし、通年講座61科目・定員2,523名、短期講座7科目・定員315名で開始いたしました。

受講確定数は、通年講座2,489名、短期講座250名です。

第1次募集期間はこの2年間と同様1か月といたしましたが、コーダイフェスタと募集期間は重なるのがいいとの意見がありました。次年度も会場予約可能日との関係でフェスタ前に募集は締切りとなります。今後の調整が必要です。

応募総数2,862名ですが、コーダイ初めての方は699名と前年を下回りました。

また、第一希望科目の選外の方は今年も650名超で、さらに第2第3希望も叶わない方々からの「新たな対策を」との声も例年通り頂いています。

受講確定通知者で期限内に入金のない方は今年も180名(前年160名)を超えました。1月15日にすべての科目における未入金数約220名を再募集いたしました。

募集活動の根幹の一つであります、大阪府担当室から各市への広報掲載依頼について例年より時期を早める依頼を行い、また大阪市内各区への募集案内冊子配架時期も同様に早くしました。

講座説明会は今年も9回実施しました。CD全員の工夫、熱意の下で、来場者は毎年

増加しています。

これからもさらに魅力あるコーダイにするべく一丸となって努力いたします。